

■追悼文

尾崎敏先生を偲んで……



つい此の7月後半に尾崎敏先生への思い出について諸々考えている時に、尾崎先生の訃報についてのお知らせを受けてしまいました。何とも惜しみても余りある気持ちです。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げると共に、深い追悼の意をこめつつ、先生のこれ迄の多大なるご業績について多少ともご紹介できればと筆を執りました。

先生は1953年3月に大阪大学を卒業すると、直ちに原子核関係の研究を目指して、大阪大学大学院理学研究科に進まれ、輝かしい研究者としての道に進まれました。時恰かも世界、特に欧米では、加速器を用いての素粒子物理の実験的研究の先端を探ろうとしている時期でもありました。その時勢もあって、先生は大学院途上当時有能な学生が、よく期待していた米国での研究者生活を念頭に、博士課程の中途ながら、1955年9月には、有名な米国マサチューセッツ州のMIT（マサチューセッツ工科大学）に入学されました。そこで本格的な研究者としての道に進まれたわけでした。

そこ、MITでPh.D.をとられた先生は、さっそくその秋には、当時として、世界的な素粒子研究の先端を走りつつあった米国ブルックヘブン国立研究所（Brookhaven National Lab. 略称BNL）に入所し、本格的な高エネルギー実験の研究に携わったわけでした。

BNLでは専ら当時としては最高エネルギーの陽子加速器であったAGS陽子シンクロトロン

（Alternate-Gradient Synchrotron）を用いての実験グループの中核メンバーの一人として大いに活躍されたのでした。有名な陽子-陽子散乱の実験の論文など多くの研究業績を此処で揚げられ、世界の高エネルギー実験を引っ張られたのでした。私も丁度その頃BNLの研究所の素晴らしい話を聞いて、1962年9月にBNLの原子核研究グループの一つのグループ・リーダーであったDr. Gertrude Scharff-Goldhaberのグループの一員として採用され、ブルックヘブンでの研究の一部に参加することができ、大いに興味を持って憧れの研究を行ったわけでした。

私のグループは、丁度尾崎さんの研究室と廊下を挟んで向い側の研究室で研究を進めるようなことになったわけでした。しかし一方尾崎さんのグループの仕事は専ら、当時最先端の30 GeV陽子シンクロトロンを光束を用いての加速器光束実験で、我々の原子核グループの利用している原子炉の建物に付随した実験室とは別個の広い実験室で行われており、結局日常的には余りお目にかかる機会は少ないものでした。それでも時々お目にかかってお会いしては、陽子-陽子散乱についての興味ある結果について話して下さいました。尾崎先生は、今想い出しても性格的に実に明るく、豪放磊落で世界最高エネルギーの30 GeV陽子シンクロトロンを光束を使っての実験家にはふさわしい研究者であったと云うことができましよう。

さて、一方、永年種々の議論の末、日本における高エネルギー研究者の憧れであった高エネルギー物理学研究所（当時の名称）が創設されると、尾崎先生からも当然お祝いの連絡があり、日米協力研究への強い期待が寄せられました。こうして、1971年にKEK（高エネルギー研）が設立されると尾崎先生も日本での研究に興味を持たれ、1981年には先生自身も高エネルギー物理学研究所物理研究系・研究主幹としてKEKに参加されました。その後、大いに頑張ってトリスタン計画推進部の創設に力をそそぎ、同じく衝突ビーム測定器研究系主幹としてトリスタン実験に大いに貢献することになりました。大体トリスタン（Tri-



TPAC：第4回委員会にて；AMY 実験承認採択決定（1983年11月）

Ring Storage Accelerator in Nippon) という名もオペラなど音楽好きの尾崎先生の肝入りで付けられた名前でした。こうして、国内外研究チームからトリスタン実験計画の応募があり、VENUS, TOPAZ, AMY 及び SHIP などの実験チームの課題が承認され、採択され、活動を開始したのでした。添付の写真はそのトリスタン物理審査委員会（略称 TPAC）の一風景であります。尾崎先生の満足そうなお姿が印象的であります。

さて、それからの研究所の発展は皆さんの見聞きされるような通りで、同時に“加速器”と云うものの技術的重要性と応用性について世間にも広

く知られるようになりました。こうして振り返ってみても尾崎先生と高エネルギー研（KEK）との関係は誠に深いもので、尾崎先生の関与があったればこそ！と思えるものです。つい此の7月にはこれ迄病氣療養中と伺っていた先生の訃報に接し、本当に惜しみても余りある感慨で胸が一杯です。此処に深く追悼の念をこめ、先生の天国での幸せな生活を念じ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

高橋 嘉右
(高エネルギー加速器研究機構名誉教授)